

4-1-5-9 神経内科

1. 無痛無汗症国際シンポジウム2003 (International symposium on CIPA 2003) の開催

「無痛無汗症国際シンポジウム2003」: 二瓶健次会長の下で、平成15年11月23日、24日に、国立成育医療センター講堂で開催された。国内外の痛みに関する専門家、無痛無汗症の専門家(生理学、遺伝学、小児神経科、整形外科、小児科、歯科、皮膚科、外科、麻酔科、臨床心理、教師、作業療法士)と内外の患者とその家族が参加した。海外から2家族7人(ニューヨーク、エクアドル)が参加した。基礎、臨床、介護、教育、福祉の広汎な立場から討議された。また、内外の専門家による内外の患者の診察、相談も行った。

本疾患に関するはじめての基礎から臨床までの国際会議で、専門家による診療を相談も含めた総括的な新しい試みであった。成功裏に終了した。和文と英文のプロシーディングを発行した。

2. 診療内容

2.1 対象とする疾患

神経内科は、脳性麻痺・てんかん・知的障害をはじめとして、発達障害・神経変性疾患・先天性代謝異常症・筋疾患・末梢神経障害などの神経系疾患の診療を幅広く行った。また、小児救急疾患である急性脳炎・脳症、髄膜炎なども、救急診療科・集中治療科と協力して診療に従事した。

2.2 検査・治療の概要

診断に必要な検査として、頭部画像検査(核磁気共鳴画像、CT スキャン)、脳血流シンチグラム、神経電気生理検査(脳波、誘発電位、末梢神経伝導速度)などを、外来または入院にて施行した。また、筋ジストロフィーなどの筋疾患などについては筋生検を施行し、遺伝性神経疾患については遺伝診療科の協力の下で遺伝子検査にて診断を行った。

3. 研究活動

3.1 無痛無汗症に関する研究

前述の無痛無汗症国際シンポジウム2003では、本症の末梢循環や発達について、これまでの研究成果を発表した。

3.2 ミトコンドリア脳筋症に対する新しい治療

難知性疾患であるミトコンドリア脳筋症の臨床治療の評価について、厚生労働省の小児期発症のミトコンドリア脳筋症に対するL-アルギニンおよびジクロロ酢酸療法の効果判定と分子病態を踏まえた新しい治療法開発に関する臨床研究班に参加し、成果を発表した。

3.3 てんかんを持つ患者さんの妊娠・分娩に関する研究

てんかんを持つ患者さんの妊娠・分娩に関する大規模なアンケート調査を行い、現状とその問題点について解析し、成果を厚生労働省の疾患を持つ母体から出生した児の予後に関する基礎的および臨床的研究班にて発表した。